

白水池の土地を市に寄付

― 市民共有の貴重な財産として将来にわたり継承 ―

問い合わせ先
都市計画課公園担当
☎(584)1111(代)
☎(584)1143



市内に残る19のため池の中で最も大きく、市の象徴ともいえる白水池。憩いの場として多くの人に親しまれています。その一方で、近年頻発する集中豪雨対策など、防災上の課題を抱えています。

ため池を取り巻く環境が変化する中、豊かな自然環境を将来にわたり継承していくために、上白水財産組合が所有する部分の白水池の土地を市へ寄付していただくことになりました。

ため池を取り巻く環境の変化

ため池には、都市景観の形成、水資源の利用、浸水被害軽減のための雨水の貯留など、さまざまな機能があります。しかし、全国的な調査においては、築造年代が江戸時代以前または不明のため池が約7割となっており、ため池施設の老朽化や、農業従事者の高齢化による管理組織の弱体化が懸念されています。

近年の集中豪雨の頻発などを踏まえ、平成25年から全国で一斉にため池の総点検が行われ、災害時に大きな被害をもたらす恐れのあるため池が「防災重点農業用ため池」に指定されました。

また、「平成30年7月豪雨」において西日本を中心に多くのため池の堤体が決壊し、下流域で甚大な被害が発生したことを契機として、ため池に関する法整備が進められました。

白水池の特徴と課題

白水池は、周辺に残る自然林を生かして「白水大池公園」として整備しており、四季折々の風景を楽しむことができます。池の周辺にはアカマツの群生が確認されるほか、カモなどの生き物が多数生息しており、生物多様性に優れた貴重な自然環境となっています。

一方で、白水池の下流域には住宅や商業施設などが密集しており、仮に、ため池の決壊が起きた場合、甚大な被害が想定されます。このため、国の基準に基づき最も危険なランクの「防災重点農業用ため池」に指定されており、防災上の課題を抱えています。



春日市ため池保全等基本計画

市街地のため池が点在する市の特徴を踏まえ、市は、主に防災対策の観点からため池のあり方の見直しに取り組み、令和6年12月に、同計画を策定しました。

この計画は、各ため池の現状、景観特性、利水状況、災害リスクなどの観点から、ため池ごとの適正なあり方を示したものです。

今後は、所有者と協議を進めながら、貴重な自然環境の保全と、安全で良好な生活環境の両立を目指していきます。

上白水財産組合からの寄付

白水池の土地の西側は上白水財産組合が所有しており、市は、計画を踏まえ、同組合と、ため池の現状や今後のあり方について協議を重ねてきました。

白水池が、かつては官有（かんゆう）公（こう）が所有する池であったという歴史的な経緯も踏まえながら、市への財産移管について検討していただきました。その結果、防災対策の推進や、豊かな自然環境を未来の世代まで着実に残すという観点から、同組合所有部分の土地を市に寄付するという大きな決断をしていただきました。

市長謝辞

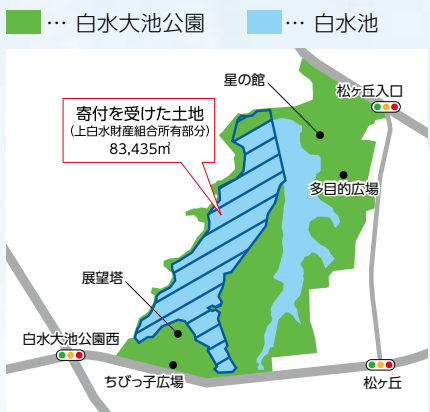


春日市長 井上 澄和

市は、自然環境豊かなため池を保全し、将来へ継承するため、全国的にも珍しい「春日市溜池保全条例」を昭和60年に制定しました。

春日市が、九州で最も人口密度の高い住宅都市でありながら、住み良さを実感できるのは、多くの方々の努力によって今日まで残っていた「ため池」の貴重な水と緑の空間が、市民生活に安らぎや潤いをもたらしてくれているからこそだと考えています。

このたび、上白水財産組合の皆さまが、長年にわたって大切に管理されてきた地域の宝である白水池の所有部分の土地を、市に寄付していただきました。



白水池にまつわるコラム 武末新兵衛物語

白水池は、江戸時代以前に築造され、上白水村と下白水村の人たちによって管理されてきました。両村の下流域の須玖村では、大きな川がなく、毎年のように日照りの被害で水不足に苦しんでいました。

江戸時代の須玖村の庄屋（村の代表者である役人）の武末新兵衛は、白水池により多くの水を溜めて須玖村にも水を分けてもらえるようにするため、上白水村と下白水村に交渉し、堤防のかさ上げを行いました。これにより、須玖村でも白水池の水を農業用水として利用できるようになりました。

「武末新兵衛物語」を、市公式YouTubeチャンネルで公開しています。詳しくは市ウェブサイト(☎1004518)をご覧ください。

